

生徒理解・教育相談についての研究

生徒支援システムづくりの実践（Q-U・S-HTP）

日高村立日高中学校 教諭 山本 多江

1 はじめに

学校現場では、「きれる子ども」「学級破壊」「ひきこもり」「不登校」などの問題から、生徒の心のケアへの関心が高まっている。

その解決に向けてあらゆる方法が模索されている今、問題行動の発生を予測したり、発生を抑制したりする方法、すなわち予防的立場からの取組がさらに重要になっている。

本研究では、Q-Uによる学級適応感とS-HTPにおける課題解決の方法、さらに取組を併せて評価することで、生徒の学級における適応課題を発見するなど、学校現場での生徒指導や学級づくりなどの学級運営に役立てることのできるシステムづくりを提案することにした。

心理テストを個別の診断としてではなく、第一軸（課題解決への取組：生徒の今、現在の生き方）と第二軸（学級の中で十分な自己肯定感が持っているか）から生徒の適応状態を把握し、第三軸（適応に困難を感じている生徒の発見）を設け、これらを立体的にとらえることによって、学級運営（教育）の中で実質的、効果的に支援できるシステムづくりにしたいと考えた。

今回、この生徒支援システムを実際の学級運営に導入した実践結果も併せて報告する。

2 研究の目的

平成13年度より高知大学医学部に留学した教育研究生からQ-U、S-HTPを用いた生徒支援の研究が開始され継続し研究されてきている。今回は従来の研究での整理方法・分析方法に、新たな分類の研究を重ねることで、生徒支援システムづくりと実践研究から学級のアセスメントを行う。その結果を実際の学級運営に導入し、その効果を検証する。

3 研究方法

(1) 生徒支援システムづくり

実施調査

- ・楽しい学校生活を送るためのアンケート「Q-U」
- ・描画テスト「S-HTP」

調査の有効性

- ・Q-U

不登校やいじめの被害を受けている可能性の高い児童生徒を早期に発見できる。同時に学級集団の状態の分析と生徒の実態をみることができる。

- ・S-HTP

描画自体の無意識的イメージとそれに付け加えられる意識的言語的世界との相違、ならびに実存の世界との相関を探ることができる。

生徒の生き方を現象的にとらえての分類方法(プラス=健康的な描画、マイナス=何だかの問題を抱えているのが表現されている描画から内面を理解する尺度:本研究にて作成)を活用することにより、学級全体の生徒の把握とともに困難な問題を抱えている生徒の発見ができる。

*個人の資料が明確に存在するため、再テストを実施することでその支援の効果を検証（評価）することができる。

実施時期

1回目・・・5月～7月 2回目・・・11月～1月

実施方法

ア 楽しい学校生活を送るためのアンケート・・・Q-U

市販の用紙を利用する。

イ 描画テスト・・・S-HTP

*準備物 ケント紙1枚(A4)、HB鉛筆2本、

*教示 「家と木と人を入れて何でも好きな絵を描いてください。」

「裏に書きたいことがあれば何でも書いてください。」

*留意点

・用紙は横に使用する。・時間は自由であるが約20分前後が適当と思われる。

・絵の上手下手を見るのではない。・いい加減ではなくできるだけ丁寧に描く。

・写生ではなく思った通りに描く。・さしは使用しない。・隣の人の絵を見たり邪魔をしない。

整理方法

ア Q-U

(ア) 分類

*「承認得点」と「被侵害・不適応得点」の2つの得点から4つの群に分ける。

・学級生活満足群 = 学級生活に満足している。

・非承認群 = 認められることが少なく自主的に活動することが少ない。

・侵害行為認知群 = 自主的な活動はしているが、いじめなどを受けている可能性がある

・学級生活不満足群 = 学級の中に居場所がなく、不安な気持ちで過ごしている。いじめ
(要支援群) や悪ふざけを受けていたり、不適応になっている可能性が高い。

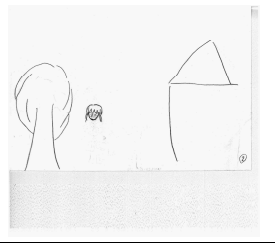


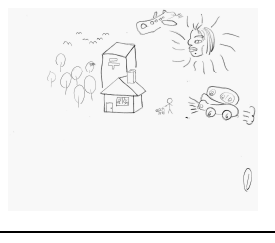
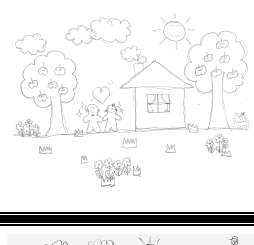
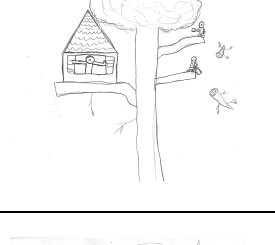
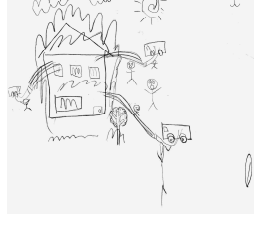

(イ) プロット図からの学級への支援

	予想する学級の状態	支援
学級生活満足群 優位型 (右上型)	不満を感じている生徒も少なく、望ましい状態。	生徒が学級生活で発揮している意欲ある活動を認め、より広い領域で活動できるように援助する。
非承認群 優位型 (右下型)	生徒間にトラブルは少なくまとまったクラスに見える。みんなで協力して何かをやるうとする意欲に欠ける。	学級内で生徒が楽しめる場面を意識的に設定する。生徒たちの心を和らげる。生徒の能力を理解し、係り活動などを通してかわりを広げる。人間関係づくりを仕組んでいく。
侵害行為認知群 優位型 (左上型)	生徒の活動意欲は高いが生徒間の友達関係が、やや稀薄でトラブルが発生しやすい。	生徒同士が仲良くなれるような機会を意識的に設定していく。生徒の社会性や他人の気持ちを考える視点を育成する。ルールを決め、細かく指導していく。
学級生活不満足群 要支援群 優位型 (左下型)	多くの生徒が何らかの不満を感じており、トラブルや小グループ同士の対立などが発生しやすい。	日常観察を重点的に行う。生徒との距離を近くし会話を多くする。信頼関係を築く。生徒が本音を語れる面接などを仕組んでいく。(個別対応)

イ S-HTP

(ア)分類

6領域において、プラス、マイナスに分類し、内面の問題をとらえる尺度を作った。空想は両方とも問題を抱えているためマイナス描画として扱い< A >・< B >で分類した。

型	プラス		マイナス		
現実	家、木、人、の みが描かれ構 成に配慮がな い。	柔軟に対応でき ない。自発的に行 動できない。 堅さがある。 制限されている。		支援が必要 大きな省略があ る。輪郭がゆがん でいる。塗りつぶ している。	
現実	家、木、人に付 加物がある。 現実 よりも 大きさなどが 配慮されてい る。	現実 よりも柔 軟で緩和されて いる。		支援が必要 自己に不快な侵 入がある。 テーマ(教示)か らのずれが見ら れる。	
両向	構成的である。 適度な空想が 入る。	ルールの中で比 較的自由な表現 が見られる。		不健康さがクロ ーズアップされ ている。 暗さや淋しさな どが感じられる。	
両向	両向 にファン タジーがはい る。	両向 よりもバ ランスがとれて おり豊か。枠の中 で自由に表現が できている。		孤独感、違和感が 見える。 濃い影がある。 塗りつぶしがあ る。 筆圧のバランス が悪い。	
空想	現実の課題よ り夢・あこがれ が表現されて いる。	個性を自由に表 現している。 空想を楽しんで いる。			
空想	3要素が現実で なく教示から ずれている。	< A > 支援が必要 まとまりがなく コントロールが できない。素直に 課題に取り組め ない。		< B > 特に支援が必要 否定、攻撃的。 教示からのずれ が見られる。 破壊、違和感、犯 罪性が見える。	

< 図 1 : S-HTP分類表 >

(1) 見とりと支援

		見とり	支援
ブ ラ ス	現 実	教示に対して真面目に反応している。対応が堅く制限されていて自由さがなく(特に現実)。現実への順応を優先させて個性が出せず、対人関係が広がらない場合が多い。	コミュニケーションを大事にし、柔軟な対応を心がける。対人関係を円滑にするためかわる場を設定し自己表現ができるように配慮する。保護的に安心できる場所を与える。
	両 向	外からの刺激への対応も現実に即した対応もバランスがとれている。そのため適度な余裕と遊びがある。対人関係も豊かで安定している場合が多い。	この時点で大きな問題をかかえている可能性は低く、特別な支援の必要はないと思われるが、常に観察を心がける。
	空 想	空想の場合、与えられたテーマよりも空想や欲求を優先させる。そのため描画を楽しんでいる。個性的で豊かな想像力がある生徒の場合が多い。	生徒の個性をうまく引き出し生かす工夫をする。活動後の生徒への評価を具体的に与え自信をもたせる。
マ イ ナ ス	全体(現実・両向・空想)	それぞれの分類された型の特徴の中で何らかの問題を抱えているのが表現される。暗く、重く、違和感がある。また空想 < A > は、大きく現実のルールを無視し空想に入り込むことで非現実的になったり、衝動性が表現されたりする傾向がある。空想 < B > は否定的、破壊的、非社会的な面が見られる。課題を抱えている場合が多い。自分自身をコントロールできず、本人が気づいていない間に表現されている(無意識の表現)。	生徒の抱えている問題には浅いものから深いもの、または一過性のものとさまざまである。そのため簡単な支援から個別支援まで幅広く観察し支援する。現実、空想の生徒には特に細心の配慮を必要とする。学校としてのチーム支援や関係機関も含めた指導なども考える。

分析・考察方法

- * Q-U、S-HTPの結果をまとめる。<資料1>
- * Q-U、S-HTPそれぞれから個人、学級、学年での状態(実態)を把握する。
- * Q-Uの結果のプロット図にS-HTPの結果を重ね組み合わせ図を作る。
(Q-Uのプロット図と組み合わせ図との両方から学級、個人の実態を把握する)
 - ・全体での支援と個別での支援を判断する。(問題解決への取組)
 - ・不満足群の中でも「+」の描画と「-」の描画での抱えている問題の違いに気づく。
 - ・満足群の中でも「-」の描画から支援の手がかりを見つける。
 - ・Q-Uに対し適応しようとする気持ちが優先したり、適応しているように見せかけたい生徒への対応を行う。(適応状態の把握)
 - ・個別支援の生徒(困難な問題を抱えていると予想される生徒)の発見と具体的な取組案作成。

支援の方法(検討会)

- * 学級・学年・学校での取り組み案
 - ・結果のまとめと学級担任からの「事例提供」を分析検討し今後の課題を作成する。
 - ・育てるカウンセリングを活用する。(予防・開発的カウンセリング)
 - ・カウンセリングマインドを日常に生かしていく。リレーションと学級のルールづくりなど。
(人間関係を大事にする姿勢と防衛機制を緩和させる)
 - ・学級支援と特別支援の対応を具体的に決め取り組む。
 - ・学校組織、学年組織として研究、研修など計画的に進める。

(2) 実践研究

対象

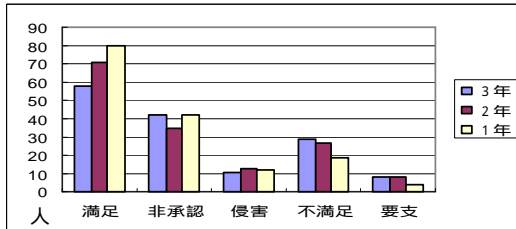
A中学校・・・1年生 160名 2年生 160名 3年生 160名 計 480名

B中学校・・・1年生 33名 2年生 34名 3年生 42名 計 109名

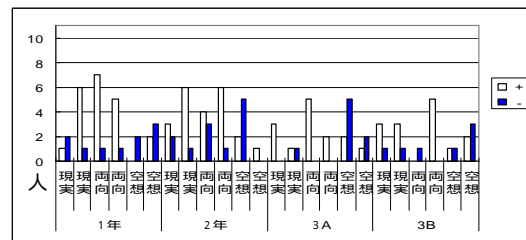
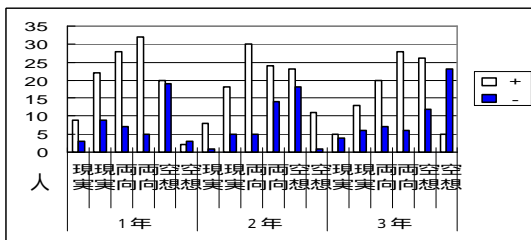
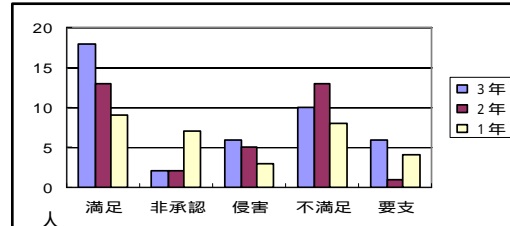
A中学校・B中学校 全学級数 16学級 計 589名

Q-U、S-HTPの分析と考察

A中学校



B中学校



<グラフ1：各校学年別集計 上=Q-U 下=S-HTP>

全体でのグラフ1から、学校、学年としての実態把握ができた。

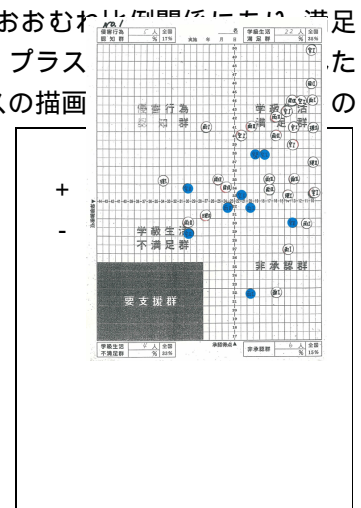
両校ともに共通して両向型の子どもの素直な描画が中心に見られたが、空想 マイナスで問題を抱えていると予想される生徒も多い。A中学校では全学年両向の描画が中心だが、3年生は空想 の描画が特に多く、個別支援も考慮した細心の配慮が必要であることが考えられた。B中学校では3年生のみ2学級ということや、生徒数に学年差があることもあり、ばらつきがみられる。その中でもQ-Uで不満足群、要支援群の生徒数が全体の割合から見ると多いため、個々の生徒の描画と重ねて考察し、それぞれの生徒に適した支援の方法が必要と考えられた。

次に学級ごとにQ-Uのプロット図にS-HTPの結果(現実・現実・両向・両向・空想・空想)をそれぞれプラスとマイナスに分け重ねる事により学級、個人を考察した。

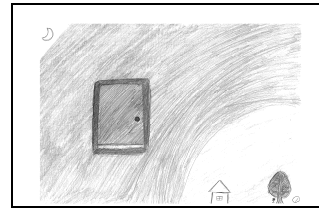
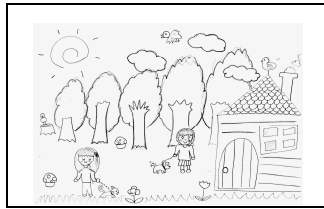
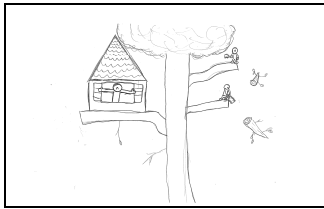
Q-Uの結果とまとめた表や組み合わせたプロット図においてはおおむね両向プラス群には明るく健康的で両向 のプラスや描画を楽しんでいる空想 プラスが、不満足群には暗く重い現実、空想、空想 などのマイナスの描画ことから特に不満足群の生徒の持つ内面的な問題に深く関わり支援する必要性が理解できる。

図1のプロット図はA中学校の3年生の学級で組み合わせたプロット図である。両向プラスの生徒が多いが、満足群にいる空想 マイナスの生徒や非承認群、不満足群のマイナスの生徒への配慮が必要であることが見える。

さらに描画から考察すると満足群で空想 の生徒からは攻撃的であったり迷いが見られたりする。自分を良い意味で作り上げていることが予想される(描画1)。また学級生活には不満足で仲間との関わりは苦手だが自分の世界で楽しむことを知っているとして予想される生徒(描画2)と、今心に問題を抱えており個別支援 の必要な生徒(描画3)が見られ、両者の違いに気づくことができた。



<図1：組合せプロット図>



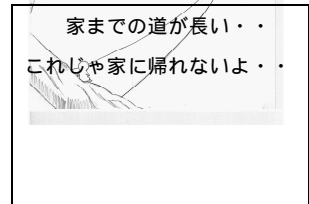
< 描画 1 : 満足群で空想 (-) > < 描画 2 : 不満足群で両向 (+) > < 描画 3 : 不満足群で空想 (-) >

また、用紙の裏に記入された説明やメッセージから、抱えている問題や悩みなど、生徒の内面を知ることでもでき、支援のきっかけになった。(描画 4)

取組

A 中学校では、Q-U についての研修会、S-HTP の分類方法および生徒理解の研修会をそれぞれに実施した。

結果から担任より事例提供が出され、学年団での討議が行われた。今後の課題解決へと発展させた。



< 描画 4 : 絵の説明 >

< 事例提供 >	学級集団の背景	問題と感じているところ	態度や行動が気になる生徒
結果 (プロットの位置が日常の観察からは疑問に感じる生徒)	4 群にプロットされた生徒に共通する特徴		
描画から特に配慮が必要な生徒	担任の方針	今取り組んでいる内容	その結果

次に、今後の取組の共通課題として 授業でできること 学級活動でできること 学級生活から取り組めること 支援の方法についての内容が確認された。

学校全体として、学級に関すること (教室の環境づくり、学級会活動、班長会の充実、朝学活・終学活の充実など) 教員の姿勢 (生徒との会話、評価、教員の統一など) 行事に関して (プロジェクトチームの編成、リーダーの育成、集団づくり、支援、評価など) 統一した取り組み (あいさつ、教室の環境整備、机の整頓) においての今後の取組内容が具体的に提案された。

B 中学校でも、全職員において S-HTP の見方や全学級、個人の結果を把握した。上記記載の事例提供と支援例をもとに担任を軸として取組が行われた。

両校においては、工夫した新しい内容を取り入れるとともに、日々の取組としての授業での学習規律も含め、「当たり前」の部分を土台に教師集団の方向性が明らかにされていた。

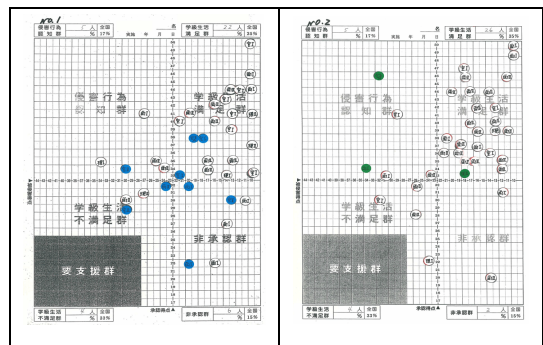
再テスト実施と比較考察

A 中学校 3 年生全学級、2 年生全学級、1 年生 2 学級、B 中学校 3 年生を対象に 12 月に再テストを実施した。分析内容は前回と同じように行い、資料を制作し比較研究を進めた。

学年別にまとめたグラフでの比較考察からは、満足群での現実型の描画が減り、全体に両向型の描画が増えた。 < 資料 2 >

また、全項目からのマイナスの生徒の描画の減少は A 中学校 3 年生 22 名、2 年生 8 名、1 年生 7 名、B 中学校 3 年生 4 名だった。特に 3 年生は不満足群でマイナスの描画の生徒が減少しており、1、2 年生は数字ではあまり現れていなかったが、楽しんでいる描画が多く見られた。

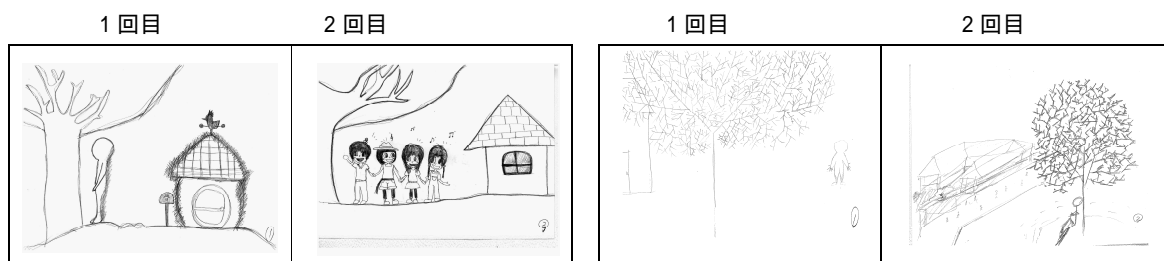
図 2 の 3 年生の学級の組み合わせたプロット図からも、個人の位置の移動と内面の変化が見られた。全体を考察すると、特に 3 年生は Q-U でのそれぞれの群での人数はあまり変化が見られなかったが、プ



< 図 2 : 組合せプロット図 1 回目・2 回目比較 >

ロット位置が全体的に満足、安定の方向に傾き、ばらつきが減少した。また、個別対応を必要とした生徒にも支援の効果が確認できた。〈資料3〉

個別対応を行った生徒を描画で比較すると、描画5・6の生徒は1回目のQ-Uは不満足群、描画は両向マイナスだった。用紙の裏からも「これは今の私、ストレスがたまりどこかに逃げたい。何か私のことを支えてほしい。悲しい絵です。」とSOSが見られたことから、個人面接を行い、その原因が学級全体の問題であったことから時間をかけて支援し解決をしている。2回目は「みんなでどこかに遊びに行こう。」と書かれ、プラスの描画に変化していた。描画7・8の生徒は1回目の結果から、支援の方法には全教職員がその生徒への意識的なかかわり（声かけや対応）を継続した。2回目もマイナスだが構成が豊かになってきているのがわかる。



〈描画5・6：マイナス描画からプラス描画へ〉

〈描画7・8：マイナス描画からマイナス描画〉

他にも個別対応を必要とした生徒に、行事（体育祭）でリーダーとしての役割を仕組み、支援したことから自信が持て、その後も意欲的に生活ができていた。2回目は落ち着いた描画に変化していた。〈資料4〉

4 結果

生徒支援システム（Q-U、S-HTPの組合せ）の実施により、生徒の実態把握、適応課題の発見、支援の方法に具体的にに取り組むことができた。二度の生徒支援システムの比較研究からも支援の効果が現れ、学級運営に役立てるとともに、その評価に活用できることが検証できた。

また、適応に困難を感じている生徒の発見も可能で、問題行動の発生を予測するその一つの方法（手段）であることを確認した。

支援を継続し続けなければならない生徒や新たに支援を必要とする生徒も見えてきた。常に生徒を把握し、課題を持ち、支援し続けることの重要性も実感した。

5 おわりに

1000枚を越す描画をみて、そのつど、子どもたちの心に触れることができた。

生徒たちは自然に現実の世界で解決できなかったいろいろな人達との関係や問題解決の方法を見つけ出し、自分の空想や感情を表現し、自分が今、最も興味を持っている事象を描きだそうとしている。

先生方からも「今まで表面的に見えるもので判断していたが、さまざまな実像が浮かび上ってきた。」「学級全員の実施により表面上特に問題のない生徒の中からも内面で気になることを抱えていることがわかり学級経営に大きく反映している。」などの感想を聞くことができた。

実践研究でお世話になったA、B中学校の先生方の方々の日々の生徒への指導、支援の成果を本研究から知ることができ、「支援することで生徒の心が動く」ことを先生方に証明していただいた。

生徒支援は、日々のあらゆる取組の中にあり、成果はその全てから生じるものだと思う。この研究がその中の一つの方法として生かしていけるように、この学びを大切に今後も努力していきたい。

〈参考文献〉

- ・三上直子 「S-HTP法」統合型HTP法による臨床的・発達のアプローチ 誠信書房 1995
- ・日本描画テスト・描画療法学会 「臨床描画研究」学校臨床と描画 金剛出版 2000
- ・河村茂雄 「Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド」 図書文化 2004

補足資料

<資料1>

Q-U・S-HTP学級まとめA学校3年2学級

	現実1	現実	両向	両向	空想	空想
1組 「+」	11-満足	4-満足	8-要支	5-満足	2-不満	7-満足
	39-非承	25-満足	13-満足	16-満足	15-非承	14-非承
		30-満足	32-満足	19-満足	28-満足	17-非承
				20-満足	33-満足	
				22-満足	35-満足	
2組 「+」				29-満足	38-非承	
	13-侵害	1-(*)	8-満足	2-満足	3-満足	9-満足
	14-満足	11-不満	10-非承	6-不満	21-満足	
		12-満足	15-非承	16-満足	24-満足	
		33-満足	22-侵害	17-満足	26-満足	
			25-非承	20-侵害	29-満足	
			36-満足	23-満足	31-満足	
				28-満足	39-満足	
1組 「-」				30-侵害		
				32-満足		
				38-満足		
	34-要支	26-非承		6-不満	1-非承	3-侵害
		27-要支		21-要支	12-不満	9-不満
2組 「-」		31-非承			36-非承	10-非承
						18-不満
						23-不満
					24-満足	
2組 「-」			19-非承	18-不満	5-満足	4-侵害
			37-非承		7-満足	27-非承
					34-(*)	35-不満

<出席番号 Q-U所属群>

*見方例 = 主席番号 の生徒はS-HTPでは現実 プラスでQ-Uでは学級生活満足群に属している。

- ・2学級のまとめを表示したが学年の全学級でまとめると学年の生徒理解の資料となる。
- ・出席番号で示しているが氏名にして見やすくするとよい。
- ・このまとめから「不満足・要支援」「マイナス」の生徒には特に考慮が必要と考える。

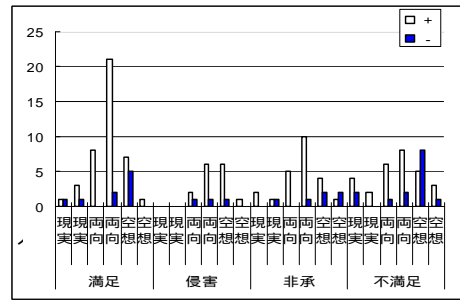
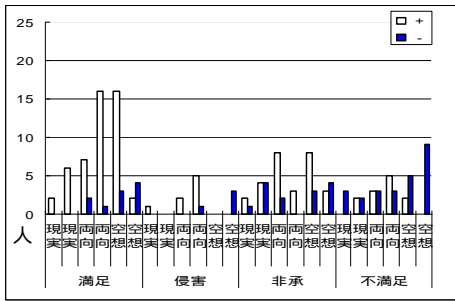
<資料2>

Q-U・S-HTP組合せ比較

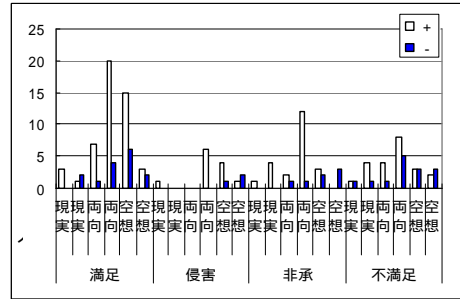
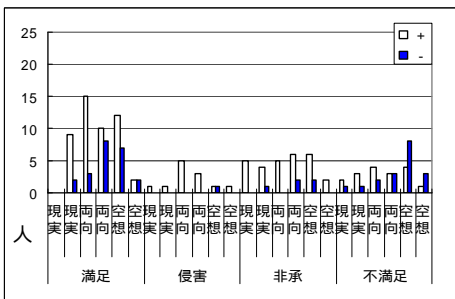
<1回目>

<2回目>

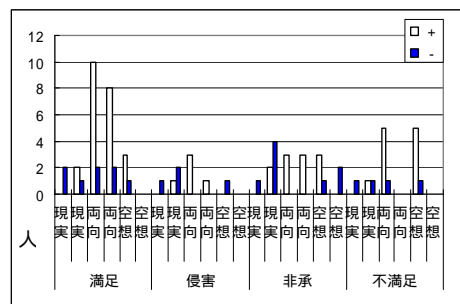
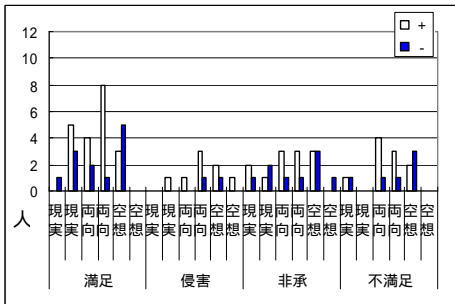
A中学校3年生



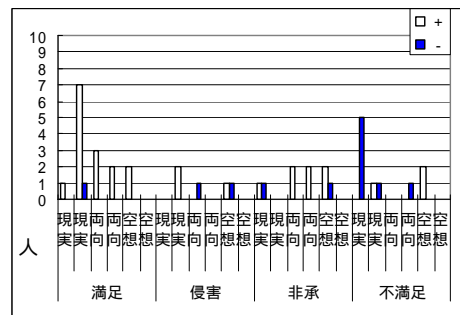
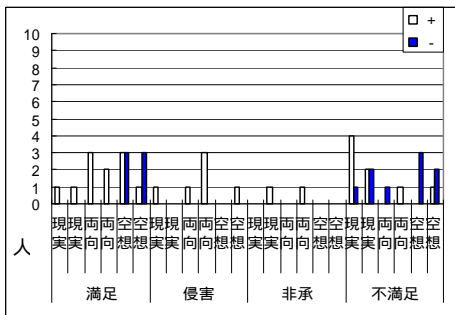
A中学校2年生



A中学校1年生(2学級対象)



B中学校3年生



<資料3>

組み合わせプロット図比較

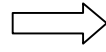
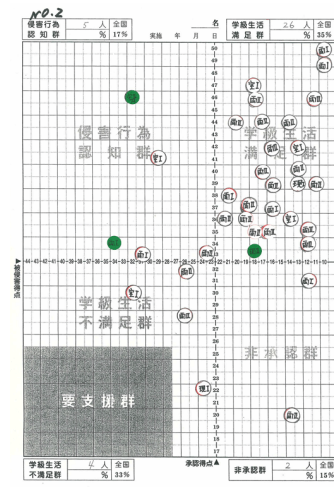
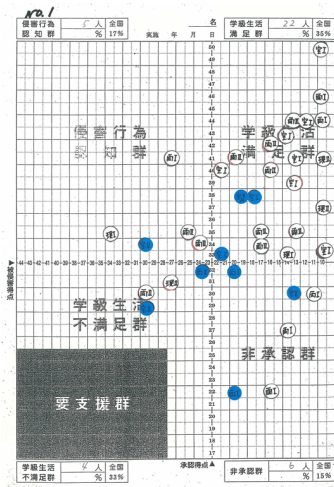
各学年1学級例

<1回目>

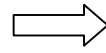
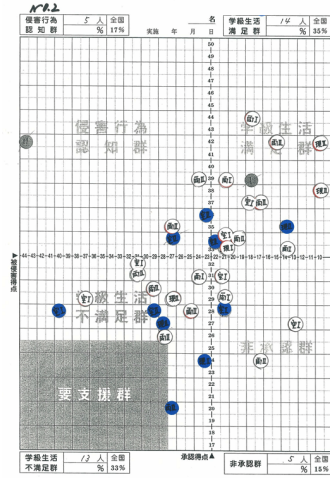
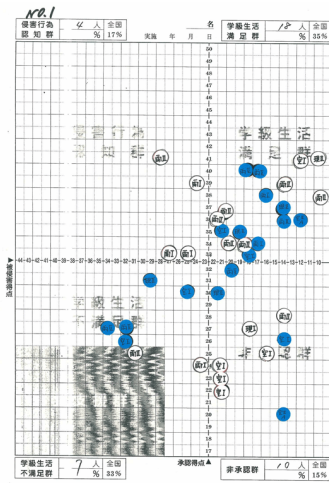
・・プラス描画

・・マイナス描画

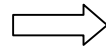
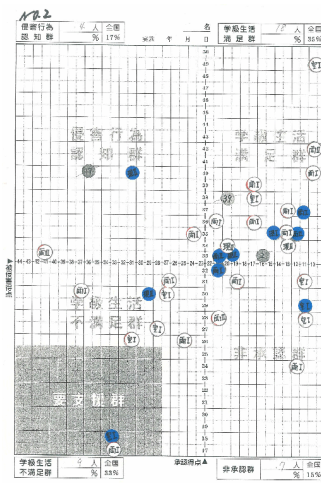
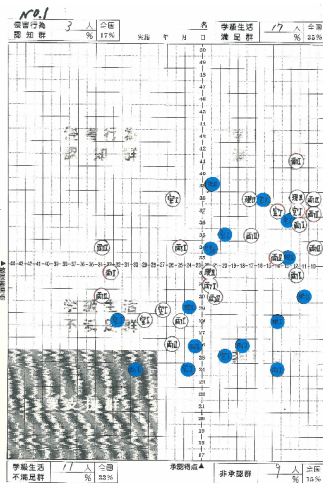
<3年生>



<2年生>



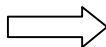
<1年生>



<料4>

描画からの比較

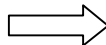
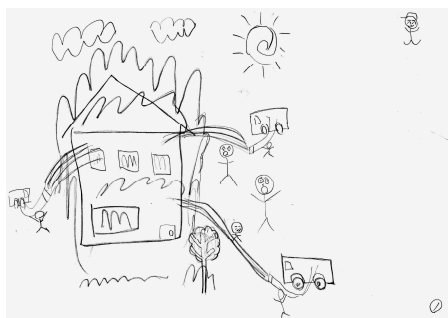
<1回目>



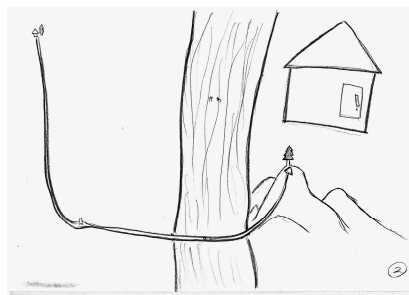
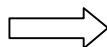
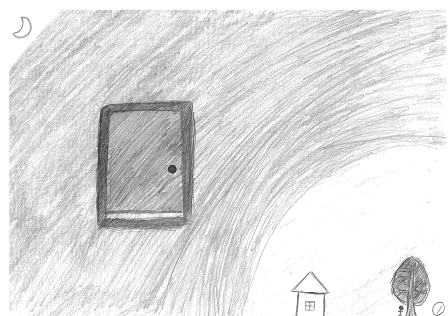
<2回目>



<p>自分の存在が淋しく背中に濃い影がある。家も強く枠で囲われていて家庭内にも問題が予想される。一人で悩みを抱えていると予想できる。</p>	<p>同じ構図の中に友達と仲良く手をつないだ楽しそうな様子が描かれている。家の中は窓が暗くやや不安は感じられるが囲いもとれている。抱えていた問題が解決できたと予想できる。</p>
--	---



<p>絵のテーマは火事で、家が燃えている様子を犯人が上の方で見ているというテーマである。破壊・犯罪性が見られ不安定さを感じる。</p>	<p>描画の裏の文字も丁寧に書けていた。やや、現実すぎるかもしれないが自分の姿も穏やかに描けていることから落ち着いた生活が予想できる。</p>
---	---



<p>黒く塗りつぶされた全体の中にドアが堅く囲われ大きく現れている。本人は小さく右下の木の下にいる。 学校、家庭など広く課題を抱えていると予想される。</p>	<p>中央に大きな川があり、まだ現実と目標とが上手く重ならず悩みが続いており、問題解決には至っていないと思われるが、家も大きくなり暗い画面がとれている。支援はまだ必要であるがその効果は予想できる。</p>
---	--